

られる。「肘木式村斗式村」は斗拱一組を表わす。「箕形板」は建物部材としては初見であるが、延喜内匠寮式に腰車の材料として「箕形」がみえる。この木簡に記す七種の部材は、角万呂車一両に載せて運搬されたもので、延喜木工寮式の車載条に記す一兩分の部材量と比較すると興味深い。(1)の裏面下部には、八文字程の墨痕が残る。(2)に関連して「米長」は左京二三次調査出土木簡に例がある。以下(7)まで食料関係の木簡である。

## 9 関係文献

秋山浩三・山中章・亀割均・清水みき「長岡京跡左京第一二〇次(7ANFZN-2地区)発掘調査概要」(向日市教育委員会『向日市埋蔵文化財調査報告書—第18集—』一九八六年)

(清水みき)

## 木簡研究 第三号

巻頭言——中国簡牘呼称についての提言——

大庭 脩

一九八〇年出土の木簡

概要 平城宮・京跡 平城京左京(外京)五条五坊七坪 藤原宮

跡 稗田遺跡——下ッ道—— 長岡京跡 大蔵司遺跡 西沖遺跡

御殿・二之宮遺跡 野路岡田遺跡 多賀城跡 漆町西遺跡 桜

町遺跡 白山橋遺跡 御館遺跡 御着城跡 鵜・城山遺跡 草戸

千軒町遺跡 野田地区遺跡 観世音寺僧房跡 大宰府学校院跡東

辺部

一九七七年以前出土の木簡(三)

平城宮跡(第二一次・第二二次北) 薬師寺 下岡田遺跡

中国における簡牘研究の位相 池田 温

庸米付札について 狩野 久

静岡県城山遺跡出土の具注曆木簡について 原 秀三郎

草戸千軒町遺跡出土の木簡——形態を中心に—— 志田原重人

彙報

頒価 三五〇〇円 一四〇〇円